

効果的な学習パフォーマンスのための 質の高い教育と持続可能な開発のための教育の連携

持続可能な開発のための質の高い教育(QESD)はなぜ必要か？

- ・持続可能な開発のための質の高い教育（QESD）は、「何を学び、どのように学び、どこで誰と学び、どのような文脈で学ぶのか？」を考慮した包括的な教育アプローチである。
- ・QESDは持続可能な開発と人々の幸福に欠かせないものである。
- ・QESDによって、意思決定や計画立案、問題解決において複雑な情報を分析・評価する力のようなレベルの高い能力の学習が可能になる。
- ・QESDアプローチを取ることで、様々な課題に個別に対応するよりも結果的にコストも少なく済み、優れた経済成長率の予測基準となりうる。
- ・QESDの実施にはESDの視点と質の高い教育の統合が必要である。

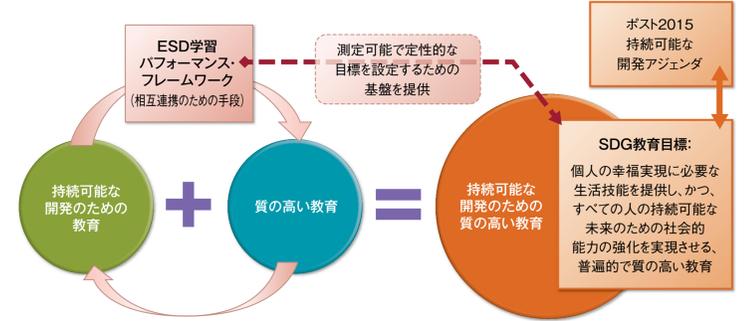


図1. QESD学習パフォーマンス・フレームワークを適用したESDと質の高い教育との関係

QESDはどのような教育であるべきか？

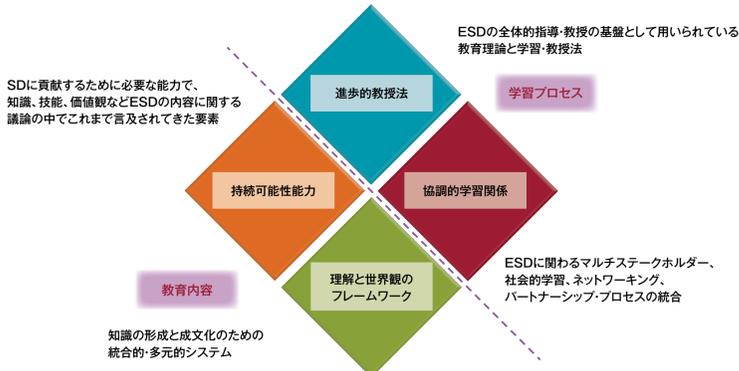


図2. ESD学習パフォーマンス・フレームワーク (LPF)：QESDを強化するツール

ESDと質の高い教育を統合することで：

- ・多くの人の適切な教育機関やプログラムへの**アクセスを可能にする**。
- ・絶えず変化する学習者と社会的ニーズに**適応可能な教育コンテンツ及び教育プロセス**にする。
- ・知識、技能、価値観の学習者への移転を通じて**包括的なESDの視点**を組み込み、ESDのコンセプトや実践的手法、LPF等のツールを活用する。
- ・日々の生活で**意識的に持続可能な選択**を行い、能力を育む。
- ・量的・質的両方の**インプット**で構成され、政策レベルでの支援を提供する。
- ・学習者、教師、学習教材や学習環境といった、その他の重要な要素を考慮する。

LPFに含まれる4つの教育的要素と学習プロセス

持続可能性能力の特徴			理解と世界観のフレームワークの特徴	進歩的教授法の特徴
知識	スキル	価値観		
<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動 ・災害リスク軽減 ・持続可能な消費と生産／持続可能な消費のための教育 ・伝統的知識 ・情報通信技術 (ICT) とESDにおける使用 ・幸福、開発、環境の質 ・レジリエンスと社会・生態システム 	<ul style="list-style-type: none"> ・批判的・複合的思考 ・代替案の模索 ・現実世界での問題解決 ・未来志向 ・変化への適応と支持 ・社会的な行動、協調及び協力 ・紛争解決、交渉、創造力、想像力 ・学際的研究スキル ・適応学習 ・課題の文脈付け ・個人的内省、ビジョニング (ビジョンの創造)、変化の特定と変化の適応に対する同意 ・システム思考と価値観重視の思考 	<ul style="list-style-type: none"> ・敬意、思いやり、共感 ・慈善、社会的・経済的公正 ・シチズンシップとスケジュールシップ (管理責任) ・エンパワメントとモチベーション ・コミットメント、協調、同情 ・自決と自立 ・レジリエンス、楽観主義、忍耐力 ・自制、情熱、心の知能指数 ・自己主張と説得力 ・確実性と倫理的自覚 ・能力と好奇心 ・相互依存 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体論 (Holism) と統合：部分ではなく全体に注目 ・システム視点または全体システム思考 ・学際的・越境的アプローチ ・文化相対主義と社会構成主義 ・パターン認識とパターンから詳細へのシステム設計 (相乗効果) 	<ul style="list-style-type: none"> ・批判的内省・実践及び問題解決 ・行動・経験志向で生徒主体の学習 ・反復的相互作用を通じた知識生産 ・生涯学習 ・集团的 (協調的) 探究の循環プロセス
			協調的学習関係の特徴	
			<ul style="list-style-type: none"> ・(社会ネットワーク間の) 相互関係のための包摂と内部構造ネットワーク、並びに重要な課題のフレーミングと民主的議論に対する自由度の拡大 ・知識と情報理解の管理システムを構築するためのグループ処理 ・参加と権限分担、当事者意識と共通点の共有 ・役割の明確な定義と目的 ・個人とグループの説明責任 ・好ましい相互依存と信頼構築 ・再帰的瞬間と言説の機会 ・状況性とソーシャルスキル 	

QESD実施に向けた提言

教育目的	適切に開発されたカリキュラムの採用	教育・学習に対する変容的アプローチ	教員研修の向上と拡大	安全で効果的な学習環境の構築
ターゲット関係者	カリキュラム開発者と教科書作成者	政治家を含む教育政策立案者 (例：国・地域の教育当局者)、カリキュラム開発者、生徒、教員・教育者、学校運営者、ESD指標開発者・実践者	あらゆる教育レベルのESDの教員、教育者、実践者	学校運営者／管理者 (地域・地方の両方)
QESDとの関係	質の高い教育には、豊かな内容、明確な学習方法論、進歩的な学習目的・目標を含む適切に開発されたカリキュラムが不可欠である。	生徒を協調的学習プロジェクトに参加させて現実世界の問題解決を目的とした批判的分析と問題解決に取り組ませる教育及び学習は「変容的」スキルの育成に役立つ。	質の高い教育には、教授法・学習方法論 (包括的で学際的な教育的視点を含む) に関する研修を通じた教員の能力構築が不可欠である。	安全で効果的な学習環境を構築することで、参加型かつ体験に基づいた学習を行うダイナミックな機会がもたらされ、それを持続可能な実践と質の高い教育の手本とすることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム開発者 (国・地方レベル) は、生涯学習と安定した雇用・生計に関する能力育成に向けた変容的学習を促す学習アプローチと教材による包括的で適切なカリキュラム策定に向けてLPFを活用すべきである。 ・カリキュラムの教育的側面において、明確かつ進歩的な学習目的を設定するとともに、評価アプローチと評価内容に関する明確な方向性を示す必要がある。 ・ESDカリキュラムの内容と構成に地域・現場での適合性と文化的適切性を考慮すべきである。 ・教科書作成者は、LPFに精通し、教科書の内容を構成する際にLPFを採用すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LPFの活用により、教育政策立案者が教育改革に変容的学習アプローチを取り入れ、標準的な教育政策へのESD導入の検討を促す。 ・省庁間の効果的な協力を義務付けるべきである。教育省と環境省の担当者はESDの実践に向けて確固としたビジョンと強力なリーダーシップを示す必要がある。 ・大学、教育管理者等が様々な形で研修を提供することができる。 ・教員及び他のESD実行責任者には十分な知識と専門技能が必要である。教員は、生徒間、生徒と教員、生徒と社会全体との健全な関係と信頼を構築するために変容的アプローチを活用すべきである。 ・ESDの指標開発者と実践者は、定性表示・評価にLPFを利用すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育のあらゆるレベルのESD教員 (未来の教員も含む)、教育当局者、管理者、実践者には、読み書き・計算能力に関する基本的な研修に加え、LPFに関する研修も必要である。 ・大学、教育学部、教育大学の職員は、LPFを用いた十分な情報に基づいた教員教育戦略を策定する必要がある。 ・現役の教員は、創造性と適応性のある教育を行うためにカリキュラムの「ローカリゼーション」、授業計画、評価方法に関する権限を与えられるべきである。 ・教員は、生徒のニーズに合わせたより良い教育を行えるように、認知と能力に基づく評価を活用した形成的評価と累積的評価の両方の採用を強化すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営者／管理者には以下が求められる。 ・統合的で全校的な教育アプローチに向けてLPFを活用し、持続可能性のモデルとなる安全な学習環境を構築すること。 ・学習プロセスの効果及びESD関連活動などの取り組みの教育内容を評価して改善に有益な情報を得ることを目的としたLPFの活用。 ・仲間同士の交流を促すとともに、周囲の生態系とのつながりを強化し、参加型かつ体験に基づいた学習を行うダイナミックな機会をもたらす環境の提供。 ・地域のニーズを満たし、強力な社会的つながり、信頼構築、シチズンシップを促進するために、学校をコミュニティ学習、地域参加、学習機会におけるハブとすること。